

# 『一生懸命』幻の新座市議会報告第241弾!



たかむらともや

## 市民と語る会

2月19日(日)の夜10時半過ぎ、我が家は静かにそのときを迎えました。

1831票の重みを胸に、新しい一步を踏み出したのです。その僕と一緒に歩いてくれることを決めたのは上田美小枝(81)。

平均年齢75.5歳の「市民と語る会」が誕生した瞬間でもありました。

新しい新座市議会は公明党(7)、未来を創る会(自民4, 参政党1、国民民主1, 無所属1)、共産党(5)、自民・維新の会(自民4・維新1)市民と語る会(無所属2)という党派構成になります。

市民と語る会の僕と美小枝は「教育は愛だ!」を合言葉にこれからの4年間も子ども達を一番に考えて頑張りたいと思っています! 僕らの人生は残り少ないですが、子ども達の未来には無限の可能性があるので



上の写真の真ん中が美小枝です。右が僕の最初の教え子で「たかやんの応援団長」の猛彦。猛彦は新設新座五中の初代番長(笑)で、新任の僕のことを支えてくれました。あれから47年、今でも応援団長として僕を支えてくれているのです。

そして美小枝。11歳年上の姉のような存在なので、僕は「美小枝」と呼び捨てにしています。二人とも”本当の無所属”なので議会では言いたいことを言わせて貰います!

2024年2月29日発行



2月11日(日)僕の70回目の誕生日に市役所に集合してくれた「たかやんの応援団ポスター張り部隊」の集合写真です。

## たかやんのプロフィール



本名たかむらともや  
54年東京青山生まれの  
新宿育ち。新宿区立西戸山中、都立石神井高、北海道大庭球部卒。大学3年の冬、突然教師を目指し、新設新座五中に赴任。新任なのに3年4組の担任となる。そんな馬鹿な...

新座五中で10年、六中で10年、子ども達と幸せな学校生活を送るが、二中に赴任直後、管理職と激突。3年2組の担任となるも6月には「来年お前たちと一緒に卒業するわ」と退職を決意...カナダへ。

現在、石神3丁目の自宅で小中高大学生の子達と一緒に「たかやん塾」で学んでいる。現在20歳の息子空もカナダのUBCで学び、塾の卒業生の洋介も空を追ってカナダのバーナビー高校で学んでいる。

カナダとは不思議な縁があるのです。写真は選挙カーに乗って喜ぶ孫の薫と娘のめぐ。三人よく似てるでしょ!(笑)

写真は選挙カーに乗って喜ぶ孫の薫と娘のめぐ。三人よく似てるでしょ!(笑)

たかやんの連絡先

自宅・塾

042-456-8869

携帯 090-6497-5737

takayanchan@outlook.jp

〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

今回の選挙、高校入試と重なって土日以外は17時半までしか選挙カーに乗りませんでした。19時から22時までは塾をやっていたのです。それでも1週間で何とか108回演説をしました。演説を聴いてくれたみなさんには感謝の気持で一杯です。ありがとう！

下の写真は12日のひばりが丘北口で演説をした直後。この中にはいつもの応援団に加えて現職の清瀬市議や早稲田大学の先生、東北大庭球部の後輩の姿も……。



演説をしていて楽しいのは、誰かに会えることです。下の左の写真は新堀3丁目の団地の前で演説をしていたら、わざわざ5階から降りて来てくれた教え子のお父さんとお母さん。六中時代、そして新堀の塾時代、お世話になった方達です。

右の写真は東久留米東口で演説をしていたら、塾の卒業生が「たかやん！」と声を掛けてくれたところです。兎に角、僕は教え子達と会えるのが幸せなのです。



選挙の初日、まず栗原公園に向かいました。「この公園は**大人**がゲートボールをして遊んでいるのに、**子ども**達がボール遊びが出来ないという公園です。この公園で**子ども**達が歓声をあげて遊ぶのは実は簡単なんことです。

この地域の**大人**が我慢すればいい。**子ども**達の歓声を騒音に感じるから市役所にクレームが入るのです。僕より上の世代は空き地や公園で自由に遊んだ世代です。その世代が**大人**になっても我慢を言って、**子ども**達を公園から締め出したらアウトでしょう。」そんな話をしたら、早速市役所にクレームが入りました。”ヘイトスピーチ”だと言うのです。**子ども**達は市役所に電話ができません。公園の看板にボール遊び禁止と書いてあれば、黙ってそれに従う。それが今の**子ども**達です。

60年前の**子ども**達は違いました。そんな看板は無視して遊ぶか看板をブチ壊すか、僕なら煩い**大人**たちと全面戦争するかな。(笑)今の**子ども**達にはそれができません。だから、**大人**が我慢してあげないといけないのです。

勿論、ネットがない公園だったらキャッチボールくらいしかできないかも知れません。それでも、**子ども**達の歓声が響き渡ったら、地域で**子ども**達を育てることになるんじゃないでしょうか。みなさんはどう思いますか・・

